

## 別表第1

## 経済学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

**(人材養成に関する目的)**

経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、社会の持続的な発展と自ら進んで人びとの福利に寄与できる人材、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材、国内外で活躍する人材の養成を目的とする。

**(教育研究上の目的)**

経済学部は、将来の目標を意識して学生が選択する「地域・国際・金融・公共」の4クラスターにおいて、経済学の基礎から応用・実践までを系統的に学び、グローバルな視点と地域的な視点を身につけることを目的として教育・研究をおこなう。

## 経済学部の3つのポリシー

**(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。

1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。
2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに取り組む能力を修得している。
3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

経済学部のカリキュラム・ポリシーは下記のとおりである。

1. 学部共通ユニット、基礎理論ユニットの科目を履修させた後、地域・国際・金融・公共の各クラスター配置の科目の履修により、卒業後の職業を見据えた応用力・実践力を段階的に養成する。
2. ゼミナール等の少人数教育によって、議論を通じて他者との相互理解を深めるとともに、問題発見能力やコミュニケーション能力等の社会人に必要とされる知識やスキルを身につけさせる。

**(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)**

経済学部は、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 入学前に経済学を学ぶ上で必要な基礎学力を培うと同時に、地域・日本・世界の経済に関して幅広い関心を持ち、大学での勉学に積極的に取り組む人。
2. 卒業後には経済の知識や資格を生かして地域社会に貢献したい、あるいはグローバルに活躍したいと考え、その実現に必要な能力を身につけようという意欲を持つ人には、勤労者や社会人も含めた広い世代に門戸を開いている。

## 商学部の3つのポリシー

**(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

商学部では、「産学一如」の理想と人材育成の目標に基づき、以下の知識や能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識を身につけている。
2. 企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報に関する専門的な知識を身につけている。
3. 自ら問題を設定し、それを解決することができる。
4. 主体的に行動し、最後までやり遂げることができる。
5. 他者とコミュニケーションを図りながら、自らの考えや意見を伝えることができる。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

商学部では、「産学一如」の理想を実現する人材を育成するために、以下の教育を実施する。

1. 職業人として必要な基礎知識を身につけるために、各コースが提供する基礎科目を学科の全員もしくは学系の全員が履修する。
2. 専門的な知識を身につけるために、各コースにおいて設定されている体系的な専門科目をカリキュラムマップに沿って履修する。
3. 少人数教育を実践するため、すべての学年におけるゼミナールを全員履修とし、問題設定・解決能力や行動力、コミュニケーション能力を養うための教育を行う。
4. 実践力を育成するために、九州ビジネス科目と研修科目を設定する。これらの科目の中から興味・関心に基づいて複数の科目を履修するほか、ビジネスインターンシップについては希望する学生が履修できるようにする。
5. 資格取得を目指した資格関連科目を設定し、これらの科目の中から将来の職業選択を見据えて、複数の科目を履修する。

**(入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)**

商学部では、多様な価値観と幅広い視野を身につけ、企業経営、地域社会、国際社会に主体的に対応できるための基礎・基本の修得を目指し、理論と実践の両面から学び、学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「生きる力」を發揮し、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。

1. 将来の目標を明確に持ち、その実現のためにビジネスの知識を必要とする人
2. 「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を習得しようとする人
3. 世の中の動きに対し、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人
4. 勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人
5. 社会に何らかの形でかかわり貢献したいと思っている人

## 別表第1

## 地域共創学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《地域共創学部》

地域共創学部は、様々な地域社会の持続可能な発展のために、豊かな構想力と人間性を育む教養と地域社会の多様な人々との連携に基づき、共創による実践力を備え、課題解決策を企画・立案することができ、新しい価値を創造できる人材を育成する。

## 《観光学科》

観光学科は、観光の学際的理論と実践的教育の特徴を活かし、グローバル、地域、ビジネスの多面的視点からの学びを深め、九州・アジアの観光関連業界で活躍できる幅広い教養と多様な価値観や国際感覚、実務能力を身につけた人材を育成する。

## 《地域づくり学科》

地域づくり学科は、地域の社会文化的知識と、持続可能な地域社会の創出に関わる幅広い分野の専門的知識の習得・実践を通じて、地域の人々との協働を通じて自らの住む地域の未来の共創に貢献できる人材を育成する。

## (教育研究上の目的)

## 《地域共創学部》

地域共創学部の教育研究上の目的は、社会科学における基礎的な知識及び学際的な視点をベースに、「地域」「観光」分野の新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に求められる知識・スキル・人間性を習得することを教育研究の目的とする。地域社会を多角的に理解し、貢献できる「創造力」「行動力」を育み、「専門知識」を活かした「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を養うための理論と実践を融合させた教育を実施する。

## 《観光学科》

観光学科の教育研究上の目的は、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した三つのコース（グローバル・ツーリズム、地域・観光デザイン、ホスピタリティ・マネジメント）による理論の学習と実践的、発展的な学びを通して、広く地域社会へ貢献できる「専門知識」「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を学生に習得させることである。

## 《地域づくり学科》

地域づくり学科の教育研究上の目的は、自らの生きる地域社会を多角的に理解した上で、地域社会における課題を自ら見出し解決策を企画するための調査能力、課題に対して積極的に取り組むコミットメント、地域の人々を協働へと巻き込むリーダーシップ、そして自らの学びに自覚的になることで更なる成長を遂げるための自省的姿勢を身につけるための研究・教育を行うことである。

## 地域共創学部の3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

地域共創学部では、本学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、地域を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を兼ね備え、社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、共創的な相互作用の発現に必要な幅広い教養、専門的知識、課題解決能力を身につけた者に対して学士の学位を授与する。

## 《観光学科》

観光学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 観光学に関する基本的知識を習得している。
2. 観光の諸問題を理解して課題を発見し、論理的に分析し考察する力を身につけている。
3. 九州・アジアに生起する観光の諸問題に積極的な関心を持ち続けることができる。
4. 自主的な学習を通じて、社会人としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。

なカリキュラムを編成することで、創造性豊かな専門技術者を育成することを教育研究上の目的とする。

#### 《電気工学科》

電気工学科では、電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電気エネルギーコースでは電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、また、通信システムコースでは情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用し得る能力を習得していること並びに論理的に説明・討論するコミュニケーション能力と技術者倫理を身に付けることを教育研究上の目的とする。

### 理工学部の3つのポリシー

#### (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

理工学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 各学科(情報科学科、機械工学科、電気工学科)における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。
2. 論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性・主体性・技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。
3. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を修得し、地域社会の発展に貢献できる。

#### 《情報科学科》

情報科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 情報技術及び情報数理における基礎的な専門知識を修得し活用できる。
2. 情報分野を基盤とした機械・電気工学の分野において活躍できる。
3. 高い倫理観を持った技術者として円滑なコミュニケーションを図りながら地域社会の発展に貢献できる。

#### 《機械工学科》

機械工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 機械・ロボット・メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎的な数理学、機械工学の基礎及びこれらを産業界で生かすことができる。
2. 技術者として必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮できる。

#### 《電気工学科》

電気工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用できる。
2. 技術者倫理を身に付け、論理的に説明・討論するコミュニケーション能力を発揮できる。

#### (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うためのKSU基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育
2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育
3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育
4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

## 別表第1

## 生命科学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

生命科学部では従来の「化学」及び「生物」分野の教育を基盤としつつ、次世代をリードし、これから発展する分野である「生命」及び人類の生存基盤である「食品」の両分野を加え、それぞれの分野で活躍できる知識と技能を持った人材の養成を目的としている。また、生命科学科では、ナノサイエンス、ライフサイエンス及びフードサイエンス関連の分野で活躍できる知識と技能をもった専門性の高い人材育成を目的としている。このため、生命科学科を「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」に分けて、それぞれのコースにおける知識・技術の習得が可能なカリキュラム編成により、各分野の産業界等において活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

## (教育研究上の目的)

生命科学科では、「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」のそれぞれの専門分野において、企画・研究・開発・生産・品質管理等幅広い専門知識と実践的技術の習得を教育研究上の目的とする。

## 生命科学部の3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

生命科学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し学位を授与する。

1. 社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を備えている。
2. 化学又は生物学領域の基礎的知識と専門的知識を理解し、活用することができる。
3. 化学又は生物学領域の実験技術を修得し、結果の分析や考察を通して成果をまとめ、発表することができる。
4. 応用化学、生命科学又は食品科学分野に関する課題を積極的に発見し、解決方法を思考することができる。

## (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

生命科学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 一般教養科目を通して、社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を身に付ける。
2. 化学又は生物学を基盤とした複数領域の専門科目を通して、応用化学、生命科学又は食品科学分野で必要となる専門知識を身に付ける。
3. 系統立てた複数の実験科目を通して、実験技術や論理的思考力を身に付ける。
4. 卒業研究及び卒研ゼミナールを通して、課題発見能力や問題解決能力を身に付ける。

## (入学者の受け入れ方針：アドミッション・ポリシー)

生命科学部は、次の能力・意欲を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 専門分野を学ぶ上で必要となる数学、国語、英語等の基礎学力を有する人
2. 化学又は生物学領域の専門分野に興味があり、知識や技術を活かして社会に貢献したいと思っている人
3. 広い視野と公平・公正な判断力を養うために、幅広い学問領域についても学習する意欲のある人
4. 学内外の様々な活動に対して、協調性を持ちながら積極的に取り組むことのできる人
5. 友愛の精神を持って勉学しようとする人

### 《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、建築学一般をはじめ、住居・インテリアに関する幅広い知識を基盤にした設計・デザインに関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

### 《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

## 建築都市工学部の3つのポリシー

### (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士(工学)を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力

### 《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### 《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 住宅を中心に建築学一般などのハードなものづくり領域及び住居・インテリアに関わる幅広いソフトなものづくり領域に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### 《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

### (教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

**(生活環境デザイン学科)**

「造形力」、「構成力」、などを身に付け、その分野の高度な専門家としての人材を養成する。より幅広い領域にも応用できるデザインのマインドも養い、実践力のある柔軟な人材を養成することを教育研究上の目的とする。

**(ソーシャルデザイン学科)**

ソーシャルデザインに欠かせない「問題発見能力」と「解決提案能力」という2つの能力の習得することを教育研究上の目的とする。

**芸術学部の3つのポリシー****(学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)**

芸術学部では、アーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者として次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 芸術の各分野における幅広い知識を備え、適切に活用できる。
2. 芸術の各分野における技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 高い知性と豊かな感性を備え、社会と文化の発展に貢献できる。

**《芸術表現学科》**

芸術表現学科はアーティスト、クリエイター、研究者として次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 自律した豊かな思考理論と学際的な専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 高度な表現技術と表現技法を修得し、優れた創造力と審美力を発揮できる。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術の芸術表現を通じて、芸術文化の創造に主体的に貢献できる。

**《写真・映像メディア学科》**

写真・映像メディア学科はスペシャリストとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する今日の社会の要求に素早く対応する幅広い教養と専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 自己を発信する技術・技法を修得し、想像力・実践力を発揮できる。
3. 写真や映像メディアを通じて主体的に社会と文化の発展に貢献できる。

**《ビジュアルデザイン学科》**

ビジュアルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 現代社会における多様なビジュアルコミュニケーションの専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 編集や伝達に関する技術・技法を修得し、表現力・実践力を発揮できる。
3. グラフィックデザイン、イラストレーションデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

**《生活環境デザイン学科》**

生活環境デザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する社会において、豊かな暮らしや環境をつくる専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 造形や構成等の技術・技法を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 工芸、プロダクト、空間演出を通じて社会と文化の発展に貢献できる。

**《ソーシャルデザイン学科》**

ソーシャルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 将来の地域社会のブランドづくりのための専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 情報伝達や企画構築の技術・技法を修得し、提案力・実践力を発揮できる。
3. 情報デザイン、ブランドづくりを通じて地域文化や地域産業の発展に貢献できる。

**(教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー)**

芸術学部は、次の方針で人材を育成する。

1. 芸術の各分野の幅広い知識と技能を通じて、高い知性と豊かな感性を培い、社会と文化の発展に貢献する人材を育成する。

## 別表第1

## 国際文化学部の人材養成に関する目的及びその他の教育研究上の目的

## (人材養成に関する目的)

## 《国際文化学部》

国際文化学部は、日本とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史についての専門的な知識、およびこれらの文化体験をもとに、グローバル社会に対応できる豊かなコミュニケーション力と主体性・協調性、問題発見・解決のスキルをそなえた国際的な人材を養成する。

## 《国際文化学科》

国際文化学科は、実践的な英語力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養をもとに、グローバル社会において卓越した英語コミュニケーション力、豊かな教養、他者と強調する態度、問題発見や解決力をもって活躍できる人材を養成する。

## 《日本文化学科》

日本文化学科は、日本の文学・言語・歴史・民俗についての専門的な知識、および日本文化の現地学習や異文化交流体験をもとに、国際化が進む地域社会に主体性・協調性・行動力をもって貢献できる人材を養成する。

## (教育研究上の目的)

## 《国際文化学部》

国際文化学部は、世界と日本の文化に関する共通科目群、言語・文化に関する多彩な専門科目群、および創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成するゼミナール系科目群を通して、グローバル化する現代社会に対応できる教養と、専門的な知識と技術を習得させることを教育研究上の目的とする。

## 《国際文化学科》

国際文化学科の教育研究上の目的は、高度な英語コミュニケーション力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養を身につけることにより、グローバル社会を生き抜くための多角的な視点、卓越した英語力、他者と協調する姿勢、問題発見や解決のスキルを習得させることである。

## 《日本文化学科》

日本文化学科の教育研究上の目的は、日本文化を文学・言語・歴史・民俗といった多角的かつ専門的な見地から理解するとともに、グローバルな視野から異なる文化や価値観を尊重する姿勢を身につけることにより、日本の文化の魅力や課題を発見・解決するための実践力を習得させることである。

## 国際文化学部3つのポリシー

## (学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー)

本学部では、次の能力を備え、学則で定められた所定の課程を修了した学生に学士の学位を授与する。

1. 諸外国と日本の文化について幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究できる。
2. 文化や国際事情に関する自らの知識や考えを論理的に表現する力を有している。
3. グローバル社会で活躍できる高度なコミュニケーション力と問題解決力を有している。

## 《国際文化学科》

国際文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を備えている。
2. 現代社会の多様な文化や価値観を認識し、いかに行動すべきかを自ら判断できる。
3. 国際社会の動向と問題に高い関心を持ち、その解決方法を広く社会に発信することができる。

## 《日本文化学科》

日本文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 日本文化について、専門的資料や現地調査を通してその課題を把握し、その問題に対応できる。
2. 多文化社会における日本文化のあり方を、グローバルな視点から相対的に思考・判断することができる。



### 《子ども教育学科》

子どもを一人の人間として尊重し、乳幼児期が人間教育の基盤となる重要な時期であるとの子ども観・保育観の形成のために、乳幼児の心理学と保育学・教育学をベースとして、保育士資格及び幼稚園教諭資格の取得に必要な能力を習得させることを目的とする。また、特別な支援が必要な子どもを教育できる実践力を養成するために、特別支援教育に必要な専門的能力の習得も目的とする。

### 《スポーツ健康科学科》

「スポーツ」「健康」「ビジネス」「指導者」等をキーワードとして、スポーツ健康科学に関連する多彩な進路に対応可能なカリキュラムを編成し、健康マネジメント（健康経営）感覚をも含めた専門的能力と実践的スキルを習得させることを目的とする。

## 人間科学部の3つのポリシー

### （学位の授与方針：ディプロマ・ポリシー）

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

### 《臨床心理学科》

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学、社会学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 認定心理士や精神保健福祉士等の対人援助職に就き、心の問題を持つ人を援助することができる。

### 《子ども教育学科》

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 健康な子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

### 《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

### （教育課程編成・実施の方針：カリキュラム・ポリシー）

人間科学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門基礎科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科それぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

### 《臨床心理学科》

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 心の問題を持つ人を心理面及び生活面から援助できるために心理学、精神保健福祉学を総合的に学ぶカリキュラムによる教育